
症例報告の活用と課題取り組みについて

～腹膜透析導入症例報告で考える～

川尻愛子、佐藤智恵子、伊藤 歩*、秋山みどり*
秋田大学医学部附属病院 一般外来、同 泌尿器科病棟*

Utilization of case reports and addressing issues ～Thinking in the case report of peritoneal dialysis introduction～

Aiko Kawashiri, Chieko Sato, Ayumu Ito*, Midori Akiyama*
Akita University Hospital, General Outpatient Urology Ward*

<緒言>

慢性腎臓病療養指導看護師（以下CKDLN）には、慢性腎臓病看護現場における看護ケアの質の向上を図ることを目的に5つの役割が求められている。1. 慢性腎臓病療養生活支援において個別的ケアの実践と評価ができる、2. 慢性腎臓病療養生活支援に関する知識と技術を持ち、安全で安楽な療養環境を提供できる、3. 患者・家族の長期療養生活を効果的に支援できる、4. 実践的モデルを示すことによって医療チームのリーダーシップを発揮する、5. 慢性腎臓病看護の質向上に主体的に取り組める、(2022年11月時点)¹⁾ ことである。今回腹膜透析導入事例をまとめ、他の学術集会で発表後に、事例やCKDLNの役割について再考する機会を得た。CKDLNとして、事例報告を発表して終わりではよいのか、また、慢性腎不全（以下CKD）看護の質向上に主体的に取り組むとはどういうことかを考えた。CKDLN個の力は微々たるものである。そこで院内のCKD関連看護資格取得者との連携協働を目指す取り組みを検討し、その一歩目となる活動を開始することが出来たので報告する。

発表に際し、個人が特定されないよう倫理的配慮を行った。

※日本腎不全看護学会は、2022年12月CKDLNの役割について更新している。更新後のCKDLNの役割は、1. 慢性腎臓病をもつ患者とその家族に対して、専門的知識と技術を用いて、療養生活を支援する、2. 慢性腎臓病をもつ患者とその家族に対して、他職種と連携し、支援する、3. 慢性腎臓病看護の質向上のため、看護職に対して教育的活動に取り組む、4. 慢性腎臓病看護の質向上のため、慢性腎臓病療養指導看護師同士のネットワーク作り等の社会的活動に取り組む、としている²⁾。

<目的>

事例報告や学術集会での発表の意味を再考し、課題に対する取り組みを検討、次の活動につなげ

ることで、腎不全看護の質向上の一助とする。

活動のきっかけとなった学術集会の発表事例について述べる。対象は、腎代替療法に血液透析を選択導入した後に腹膜透析（以下PD）療法を再選択した患者2名である。再選択に関わる他職種・他部署連携の実際と、療法に対する揺れる思いに寄り添う看護支援の振り返りを事例として報告した。

<方法>

1. 学術集会発表事例を関連スタッフと共有しリフレクションを行う
2. CKD看護関連資格取得者に協力を募り、協働できるための環境を作る

<結果>

本事例に関連していた部署のスタッフに、他学術集会発表後に資料の閲覧を依頼した。事例報告の閲覧は看護実践の振り返りともなり、介入した看護師からの意見を聴くことができた。入院前支援看護師からは、「導入までの経過とか、どのように療法選択に至ったのかまで意識していなかった。」、退院前支援看護師からは「PDに関する専門的な知識や経験不足があり、メーカーや院内他部門との連携に難渋した。」「医療・衛生材料の準備に追われ、患者さんの想いを十分に聞き取れなかった。」、外来看護師からは「外来で医師の説明に同席する時間の確保が難しい。」など介入不足な点が述べられた。A病院におけるPD導入は年間1例程度であり、PD看護を経験する機会が少ない現状である。そのため、病棟看護師からは、CKDLNなどの有資格者への相談や、専門的知識に基づいた教育・生活指導を有資格者が直接行う機会があればよい、という声もきかれた。

そこで、CKD看護の経験が少ない看護師が、CKD看護関連資格者に相談しやすい環境にするには何が必要かを考えた。現在、A病院の看護師が取得しているCKD看護関連資格は、CKDLN、腹膜透析療養指導看護師、透析技術認定士、認定レシピエント移植コーディネーター（以下RCT）、糖尿病看護認定看護師、日本糖尿病療養指導士（以下CDEJ）、秋田県糖尿病療養指導士（以下CDEA）である。しかしCKD看護関連資格者間での連携や協働での活動は現時点ではなく、また病棟看護師が有資格者に相談する明確な手段はない。そこで、外来や病棟で腎不全患者の支援を行う看護師に学会認定資格を有し専門的な知識をもつCKD看護関連資格者を改めて知ってもらい、腎不全看護の視点をもった療養支援が提供できる環境を構築する一助とするため、共に活動できるCKD看護関連資格者の協力を募った。CDEA及びCDEJは、透析予防外来業務や病棟で腎移植や透析看護、CKD保存期看護を経験した看護師を対象とした。賛同した有資格者は、CKDLN 1名、CKDLN・腹膜透析療養指導看護師・透析技術認定士・CDEAの複数資格者 1名、CDEJ 2名、CDEA 2名、RCT 1名、非認定レシピエント移植コーディネーター 1名、糖尿病看護認定看護師・CDEJの2資格者 1名の計9名となった（表1）。まずは、9名の有資格者それぞれが携わってきたCKD看護を知ることが活動の第一歩になると考え、有資格者の事例や研究を共有するツールとしてリモートワークアプリを活用した取り組みを開始している。

表1 A病院におけるCKD看護関連資格者のメンバー

氏名	取得資格1	資格取得2	資格取得3	資格取得4	所属	所属学会	
A	糖尿病看護認定 看護師	CDEJ			外来Z	日本糖尿病教育・看護 学会	
B	CKDLN	腹膜透析療養指導 看護師	透析技術認定士	CDEA	外来Y	日本腹膜透析医学会	日本腎不全 看護学会
C	CKDLN				外来X	日本腎不全看護学会	
D	RTC				外来U センター	日本移植学会/ 日本臨床腎移植学会	日本腎不全 看護学会
E	レシピエント移植 コーディネーター				病棟T		
F	CDEJ				病棟R	日本糖尿病教育・看護 学会/日本糖尿病学会/ 日本老年学会	日本腎不全 看護学会
G	CDEA				病棟Q		
H	CDEJ				外来Z	日本糖尿病教育・看護 学会	
I	CDEA				病棟O		

CDEJ: 日本糖尿病療養指導士 CDEA: 秋田県糖尿病療養指導士 CKDLN: 慢性腎臓病療養指導看護師 RTC: 認定レシピエント移植コーディネーター

<考察>

看護研究について澤田は、「患者に提供した看護実践を検証し、既存の基礎知識に経験知が加味され一般化されること、その過程で看護の質は磨かれ、発展していく。まさにこのプロセスが看護研究である。また、研究成果の発表は、新たな出会いを生む。同じ課題に関心を持つ人、共通の問題で行き詰っている人のアンテナが反応し、あなたの研究成果にひかれ集まってくる。」³⁾と述べている。A病院のCKD看護関連資格者は、各々の所属学会や研究会で事例報告や活動報告、研究成果の発表を行っているが、その活動をお互いに目にすることはほとんどない。また所属学会以外の学術集会に参加するには、費用負担もある。コミュニケーションギャップの解消や連携・相談による相乗効果を期待するためにも、有資格者が自施設内で、学術集会や研究会での発表を共有閲覧できる環境が必要だと考えた。今回、学術集会での事例報告後に参加となった研究会をきっかけに、発表した事例報告について再考し次の活動につなげる機会を得ることができた。田村らは、「相互の理解を深め、垣根をなくしていくことこそ、今後のより良い看護現場を築き上げる、つまりジェネラリストとスペシャリストを紡ぐことにつながる。」⁴⁾と述べている。今回事例報告をきっかけとして考えた活動趣旨に対し賛同してくれたA病院内のCKD看護関連資格者は9名である。各々が所属の学術集会に発表している活動成果や看護研究を、院内CKD看護関連資格取得者間で共有することは、互いの専門的知見や看護実践力を知る機会となり、共通目的・共通言語・共通認識をもつことでコミュニケーションギャップの解消、連携の一助となると考えている。そして、臨床場面で、腎不全看護に携わる看護師をエンパワーメントする存在になるために、院内CKD看護関連資格者が協働することの意味は大きいと考える。

この小さな活動の一步が、働きかけが、臨床看護師のCKD看護場面に展開していくことで、CKD看護に関心をもつ看護師のロールモデルや新たなキャリアデザインの構築の機会となり、次を担うCKD関連資格取得者に継承され、CKD看護の質の確保につながると期待している。

<結語>

1. CKDLNの役割として、学術集会報告内容を事例に関連する看護師と共有した。
2. 院内CKD看護関連資格者間が互いに協働、相談できる環境にするための一步を踏み出すことができた。
3. 今後、CKD看護関連資格者の共創力を活かし、臨床看護師にCKD看護を知ってもらい、CKD看護を患者に届ける活動となることを期待する。

<文献>

- 1) 日本腎不全看護学会：腎臓病療養指導看護師（CKDLN）とは
http://ja-nn.jp/modules/dln/index.php?content_id=1（2022/11/15最終アクセス）
- 2) 日本腎不全看護学会：腎臓病療養指導看護師（CKDLN）とは
http://ja-nn.jp/modules/dln/index.php?content_id=1（2023/1/23最終アクセス）
- 3) 澤田由美：スタッフの意識を変える看護研究のコツとワザ、Nursing BUSINESS vol.12 no. 11: 58-62、2018.
- 4) Nursing BUSINESS 編集室：ジェネラリスト・スペシャリストをいかに紡ぐか、Nursing BUSINESS vol.2 no.12: 62、2008.